

平成18年度 第1回松山地域協議会会議録（概要）

日 時 平成18年4月28日（金） 13:30～16:53

会 場 松嶺公民館

◎出席者

1号委員	菅原 功	富樫 茂	阿部 茂	寒河江 久也	小田 和夫
	齋藤 尚	今田 充代	須田 良		
2号委員	山中 俊	土田 迪子	齊藤 薫		
3号委員	遠田 聡	木村 美津枝			

◎欠席者

1号委員	佐藤 ゆき子
3号委員	佐藤 洋子

松山総合支所	支所長 平向 與志雄	地域振興課長 新館 篤
	市民福祉課長 太田 豊	建設課長 川田 進
	産業課長 難波 富也	教育振興室長 須貝 彰
	地域振興課 課長補佐兼地域振興係長 阿部 みえ	
	主事 佐藤 伸	主事 乙坂 哲也

議事日程

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協 議
 - (1) 平成18年度市の主要事業について
 - (2) 平成18年度の地域協議会の持ち方について
 - (3) 新市の建設計画の進捗状況について
 - (4) 市の総合計画について
 - (5) その他
 - ・市民憲章について
 - ・市の木、市の花及び市の鳥について
- 4 閉 会

1 開会・・・進行を努める地域振興課長が開会する。

2 あいさつ

(会長)

昨年度から発会したこの協議会であるが、会を重ねるごとに加速しつつあると感じている。我われ協議会委員は、各地域に残された課題についての意見を招集して市政に反映させていかなければならないと考える。

平成18年度予算は従前の旧町の基本計画を反映した予算が組まれて執行されているようである。

松山地区にはもっと地域から意見を汲み上げなければならない事項があると思われるので、今後の協議会で提案していただき有意義に会議を進めていきたい。

(支所長)

昨年4月1日に89名いた職員が、11月1日の合併で5名減、今年の4月1日には12名減になり、72名の職員で総合支所の業務にあたっている。業務も少なくなっているが、今後は職員1人の守備範囲が広がることになる。松山地域の総合窓口として十分な対応をしていきたいと考えている。

委員の皆様には大変なご苦勞をおかけしますが今年度もよろしくお願ひしたい。

3 協議・・・会長がこれより議長を務める。

(1) 平成18年度市の主要事業について・・・事務局説明の後質疑

○委員 教育委員会の「少年の翼」交流事業について、対象は旧酒田市から拡大するのか。また、旧町で行っていたアメリカの姉妹校との交流事業との関連はどのようになるのか。

○委員 松山地区のアメリカの姉妹校との交流費はどこの予算に該当するのか。

○事務局 「少年の翼」交流事業については、合併に伴って旧酒田市から八幡、松山、平田まで対象を広げる。ただし、松山地区における青少年国内外派遣事業については地域づくり予算の中での対応となるため対象は変わらないが、将来的には一本化になる事業だと考える。

○委員 生涯学習推進講座開催事業とまちづくり人材活用入門講座事業の関係について教えていただきたい。

○事務局 団魂の世代のための講座で、地域のまちづくりの中心となる人材を育て、最終的にはボランティア登録をしていただきまちづくりの推進を図っていかうとする事業である。

○委員 交通安全推進事業について事業内容は決まっているのか。

毎朝、松山小学校の登校隊を見ているが、狭い道を徒歩の小学生、自転車の中学生、自動車を通るので非常に危険な状態でいつ事故が発生してもおかしくない状況である。荒町から本町の道路で子供たちの登校する際の安全なスペースを確保していただきたい。

そのような経費はこの交通安全推進事業に入っているのか。

○事務局 交通安全推進事業は交通安全全般に関わる事業費である。

酒田市には3名の交通安全専門指導員がいて、その他に旧酒田、旧八幡、旧平田には交通安全指導員という方が学区単位にいるが、松山地区にはいない。昭和60年代には5～6名ほど各地区にいたかと思うが、いつの間にか廃止になった。現在、内郷、南部に各1名、松嶺及び山寺地区で2名ほどいれば、当初の目標を達成できるのではないかと交通安全指導員の設置について検討している段階である。合併前も電柱の移転などを含めた歩道の確保等の問題もあったが、今のところ進んでいないのが実情である。

○委員 横断歩道の設置場所の確保及びガードパイプの設置に関する問題の解決についても検討いただきたい。

○事務局 子供たちの交通安全を守るため、H19年度予算を踏まえて取り組んでいきたい。

○委員 人身に関わることなので、H19年度予算ということではなく、早急に対応していただきたい。

○委員 交通指導員という制度はこの地区に限ったものなのか。交通指導員の活動について教えていただきたい。

○事務局 子供たちの登校時間中に一番の危険区域に立って交通指導している。

○委員 危機管理意識が子どもたち自身にあるかどうかの問題だが、一般住民にも危機管理意識はないと思う。様々な観点から子どもを守る施策を考えることが必要である。

○委員 酒田黒びょうせん推進事業について教えていただきたい。

○事務局 昔の酒田米のブランド復活のための売れる米づくり対策事業である。

(2) 平成18年度の地域協議会の持ち方について・・・事務局説明の後質疑

○委員 この協議会での協議事項は市長からの諮問事項として捉えてよいのか。何をどう改善するのか、共通の課題を取り上げて協議していかないとこの協議会自体意味をなさないものになる恐れがある。この協議会での考え方をまとめて、要望として行政に提示していかないといけないのではないのか。昨年度3回ほど会議を開催したが、その会議の要請書等は市長に提出されているのか。

○事務局 市長の諮問としては来ていない。この会議の議事録等についてはホームページにも掲載しているが、一般市民に対してはなかなか情報が伝わらない状況なので、情報提供の方法については検討していかなければならない。

○委員 前回の協議会で要望した事項についてどうなっているのかきちんとした回答をお願いしたい。そうでないと、この場で協議する意味がないと考える。

○委員 地域協議会の中にもっと地域住民の意見を吸い上げる機会を設けてよいのではないかとと思う。住民から意見を吸い上げるパイプを作っていただきたい。

○委員 協議会の次第を見た時に、今回の協議事項は委員の中からの要望を話し合う内容のものではなく、既に決定している事項なので、協議する意味がないと感じた。

○事務局 次回の会議からは、事前に委員の皆さんに協議事項について要望をお聞きしたいと考え

る。

- 委員 地域の要望、課題というものを時間を取って協議していかなければ、いつまでも課題は解決しないのではないかと。
- 委員 協議会委員が自治会の会合にも自由に参加できるのであれば、地域からの意見を聞くことができると思う。
- 委員 話し合い結果が反映されて、住民に見えるような会議をしていけば委員としてもやる気が出てくる。
- 委員 報告事項はあって良いが、協議事項の中には地域の問題や要望等を話し合うテーマを出していただきたい。会議録も松山地区の地域版広報にでも掲載したらよいのではないかと。
- 事務局 意見を色々頂いたので、しっかりと受け止めていきたい。また、総合計画策定の中でも、意見交換会を開催するので協力をお願いしたい。

休憩（15：17～15：25）

- 委員 地域コミュニティ組織の育成とあるが、南部地区は進んでいるので、今さらモデルを提示されても混乱すると考えるが。
- 事務局 9月議会の時期までの集約だと遅いと思われるため、生涯学習課やまちづくり推進課等の補助事業を整理して随時検討を進めていきたい。
- 委員 19年度予算編成前までに形を作って動いていきたいと考えているので、モデルを作成するにあたってのコミュニティ振興会に対する市の支援対策を整理していただきたい。それから、公民館事業とコミュニティ関係事業とのすみ分けを明確にして、地域として特色を持って進められるよう把握していただきたい。

(3) 新市の建設計画の進捗状況について

(4) 市の総合計画について・・・事務局説明の後質疑

- 議長 総合計画策定に係る審議会の総務及び文教部に配置になった。平田地区では、既に懇談会を開催しているようである。松山地区でも事務局と調整して、皆さんからも参加いただき、懇談会を開催していきたいと考えている。
- 事務局 旧町の総合計画に位置付けられている事業は基本的には新市の総合計画に引継されるが、見直しは図られると考える。意見交換会は中学校の学区単位で開催することになっているが、私の理解としては、旧酒田市ではコミュニティ振興会の役員を対象に、支所区域は支所単位で意見交換会を開催することになっているので、基本的にはこの協議会の中で総合計画に係る意見を出していただきたい。この地域協議会の意見を尊重して意見交換会を進めていきたい。
- 委員 中学校単位だとあまりにも大き過ぎて何を話して良いかわからない。松山地区では公民館単位で一度、意見を集約してから意見交換会を実施してはどうか。

- 委員 この協議会だけでは、持っている情報も薄いし、少ないので、意見交換する手法を考慮していただきたい。
- 事務局 今まで町の段階では、計画というとコンサルタントや行政が作成して、皆さんに提示しているだけだった。しかし、新市では市民参加を大事にして住民の意見を取り入れることとしているので、総合計画策定にあたっては手法を考えてやっていきたい。また、地域協議会での意見は、集約して提案していきたいと考えているのでご協力をお願いしたい。
- 委員 松山において連携を強化していかないと、市の予算の大半を市街地に持っていかれるのではないかと心配である。今後は、横の連携の強化を図っていかないといけないと思う。
- 事務局 審議委員には各地区から代表が出ているので、ある程度の意見は反映されると考える。
- 委員 区長会や自治会があった場合に案内を頂ければ、勉強及び情報の共有ということで参加したいのだが。
- 事務局 区長会は先月終わったので、その区長会にて出た要望等をまとめて次回の協議会時に提示したい。

(5) その他

・市民憲章について

・市の木、市の花及び市の鳥について・・・事務局説明の後質疑

○委員 市民憲章の順番について1 歴史と文化・伝統を～ を一番最後に、1 ところとからだを～ を一番最初に持ってきたほうが良いと感じた。

○委員 「モダンなまち」という表現があまりにも抽象的過ぎるのではないかな。

○委員 市の木、花及び鳥が決定したら、関連施設を造ったり、トビシマカンゾウを市内全戸配布するなど市民レベルで参加することができるようにしたら、もっと親しみやすくなると思うのだが。

○事務局 いろいろな意見をお寄せいただきたい。

○議長 その他何か意見はないかな。

○委員 会議録の情報開示についてはどうするのか。

○事務局 会議録については、今回の協議会の内容を地域協議会だよりとして6月1日号広報配布時に一緒に配布する予定で作業を進める。

○委員 国民保護計画策定事業の予算の内容についてお聞きしたい。

○事務局 予算の内容は計画策定のための委員（区長等）の会議の費用弁償である。今年一年間で各自治体で国民保護計画を策定するようにと国からの通知があった。国から避難の指令が出たときには速やかにその自治体で住民の避難等対応できるような計画を策定する。

○委員 19年度予算編成について、地域づくり予算及びコミュニティ組織関連の予算が主流になる聞いた。コミュニティ組織の設立が遅れれば、19年度予算編成に影響すると思われるが、行政としての手続き状況はどうか。

○委員 旧市の郡部では、公民館とコミュニティ施設が両立している。事業を見るとコミュニテ

ィ部分が 90%、公民館部分が 10%である。公民館事業は特定のものしかない。市のスタンスとしては公民館を極力コミュニティ化することである。今一番はその地区にあった公民館のあり方を考えることが大切だと考える。市の方針として旧市の郡部の公民館と同じようにならないような方向性に導いていただきたいと願う。

- 事務局 地域づくり予算の編成については、地域協議会の意見を聞くことになっている。松山地域の事業については、3ヶ年計画を実施していき、4年目以降どうなるか要望を出していただきたい。公民館とコミュニティ組織の関係については、まだ市としての考え方がまとまっていない状況である。
- 委員 すぐにコミュニティ組織を立ち上げると言っても、区長方が必要性を感じていないので、土台無理な話である。
- 委員 公民館事業等が生涯学習の場なのか、教育の場なのか曖昧なのが問題だと考えるが。
- 委員 生涯学習とコミュニティの線引きを明確にしまうと、逆にやりにくいと考える。どうまとめていくかは、地域の問題である。曖昧な所があるので、うまく進んでいるのではないか。
- 委員 敬老会について、最初は各老人クラブでやってほしい、と話していたが、区長会から各公民館でやっていただきたいとあった。これも公民館事業ではないが、今までもやってきている。
- 議長 時間となったので今回はこれで終了する。次回のテーマは、総合計画、地域コミュニティ組織、地域課題についてとする。